

# 事務事業評価表

平成14年度	主要事業計画対象の有無	有	電話	042(769)8231
担当部課名	保健福祉部	地域医療	課	地域医療 係
事務事業名	災害時医療救護体制整備事業		事業コード	12330

1 総合計画における位置づけ

政策名	第2章	生涯にわたる健康づくりを進めます	事業開始年度
基本施策名	第3節	市民医療の充実	5
施策名	第3施策	災害時医療の充実	年度

2 実施根拠及び関連法令等

--

3 事業概要

(1) 事業の目的		(2) 対象(誰、何)	
相模原市災害時医療救護計画に基づき、災害の程度に即応した医療救護活動の円滑な対応を図るため、救護班派遣体制、医薬品等の備蓄・供給体制の整備を行うことによって、市民の安全を図ることを目的とする。		市民全般	
		対象数	
(3) 平成13年度事業の内容		(4) 総合計画・実施計画における概要	
<ul style="list-style-type: none"> <li>救護所(小学校)12ヶ所に備蓄医薬品の配備を実施(12・13年度、各年度12ヶ所ずつ整備)</li> <li>災害用医薬品の更新</li> <li>災害時医療救護検討会の実施 構成員 12名 開催回数 2回</li> <li>災害時における医療機関の防災体制に関する調査について</li> <li>災害時医療救護計画及び同活動マニュアルの見直しについて</li> <li>災害時医療救護体制整備事業経費 12,839千円 災害時医療救護検討会報酬 240千円 医薬品整備費等 12,599千円</li> </ul>		大規模地震等の災害に備え、救護班や救護所等の体制整備に努めるほか、医薬品等の整備や後方医療機関の整備促進を図る。	
		(5) 個別計画の概要	
		計画名	相模原市地域防災計画
		計画年次	8年度～ 年度
		市域に係る地震災害対策に関し、その防災活動の効果的な実施を図り、災害を防止し、災害を最小限度に軽減し、市民の安全を確保を図る。なお、平成14年度に同計画の見直しが行われる予定。	

4 評価指標

指標名	救護所等医薬品の配置率	救護所等へのスタッフ配置率	災害時医療救護検討会の開催率
指標式	医薬品配置済箇所 / 医薬品配置予定箇所 × 100	スタッフ配置対応可能人員 / スタッフ配置予定人員 × 100	災害時医療救護検討会開催回数 / 災害時医療救護検討会開催予定回数 × 100
指標設定の意図	医薬品配置実績により、その成果を表す	救護所等における救護スタッフの配置実績により、その成果を表す	災害時医療救護検討会の開催実績により、その成果を表す

5 目標と実績

[金額単位：千円]

	平成11年度	平成12年度	平成13年度(評価対象年度)		平成14年度	
	実績	実績	実績	目標	目標	
指標	65.8	82.9	a 100.0	b 100.0	100.0	
指標	26.7	26.7	c 60.0	d 80.0	80.0	
指標	50.0	66.7	e 66.7	f 100.0	100.0	
事業費	決算(予算)額	76	12,080	12,839	14,227	6,885
	人員・時間数	(0.1人)	(0.1人)	(0.2人)	(0.2人)	(0.3人)
	人件費	842	842	1,684	1,684	2,520
	その他経費	0	0	0	0	0
	合計	918	12,922	14,523	15,911	9,405
特定財源	0	0	3,500	3,500	3,000	

6 個別評価

(1)達成度…目標をどれだけ達成したか			
評価 B ▼	A:達成している (100%)	= 、 、 の平均値 = 80.6%	
	B:一部達成していない(100%> 80%)		
	C:達成していない (80%> )		
a	$\frac{100.0}{100.0} \times 100 = 100.0\%$	c	$\frac{60.0}{80.0} \times 100 = 75.0\%$
b		d	
e	$\frac{66.7}{100.0} \times 100 = 66.7\%$	f	
理由:	医薬品については、必要数配置できたと考えている。また、スタッフの配置状況については、医療関係団体との調整や市職員の配置など概ね達成できている。		

(2)必要性…時代変化に適応した事業内容か			
評価 A ▼	A:適応している	理由:	災害時における医療救護活動の円滑化を図るもので、必要性は充分ある。
	B:一部適応していない		
	C:適応していない		

(3)経済性・効率性…費用対効果は妥当か			
評価 B ▼	A:妥当である	理由:	災害時における備蓄医薬品等は必須なものであるが、高価なものであり、また、品質期限等も定められているものであることから更新の必要性もあり、大量な備蓄については、一部、効率性の面からは効果的ではない。
	B:一部妥当でない		
	C:妥当でない		

(4)事業の代替性…県、民間との役割分担のあり方から見て、市が実施していくことが適当か			
評価 B ▼	A:代替の可能性ない	理由:	市の地域防災計画に位置付けられているものであり、直接市民に影響があるため、代替性は低いと考えられる。
	B:代替の可能性低い		
	C:代替の可能性高い		

(5)市民満足度…対象市民の満足は得られているか			
評価 B ▼	A:満足できる	理由:	市民の生命を守るためのものであり、概ね満足が得られていると考える。
	B:一部満足できない		
	C:満足できない		

(6)有効性…当該事業は上位の施策を実現する上で有効か			
評価 A ▼	A:有効である	理由:	市地域防災計画を推進していく上で必要な事業である。
	B:一部有効である		
	C:有効でない		

<p>評価バランスチャート</p>	成果向上の余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<p>説明:</p> <p>スタッフ確保を含め、体制整備を行うことで、災害時に対応できる体制が構築できる。</p>
	コスト改善余地	
	<input checked="" type="checkbox"/> ある <input type="checkbox"/> ない	<p>説明:</p> <p>医薬品の備蓄体制を明確化することにより、コスト削減も可能となると考える。</p>

7 総合評価

評価	B ▼	他自治体の類似事業との比較	災害対策基本法により各自治体では災害時における防災計画を策定するよう義務付けられている。
今後の進め方		説明	大規模災害時において、医療救護活動が速やかに実施できるよう、医薬品の備蓄、救護所スタッフの配置等は必須なものであり、更なる充実が必要なものである。
<input checked="" type="checkbox"/>	継続		
<input type="checkbox"/>	見直し		
<input type="checkbox"/>	廃止		
<input type="checkbox"/>	完了		

8 二次評価における変更点

--